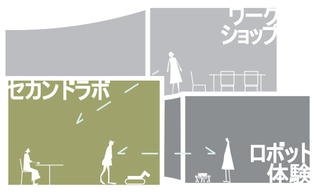
研究と市民が交わる場
ーセカンドラボと大学ミュージアムー

cy16006　上野詩歩

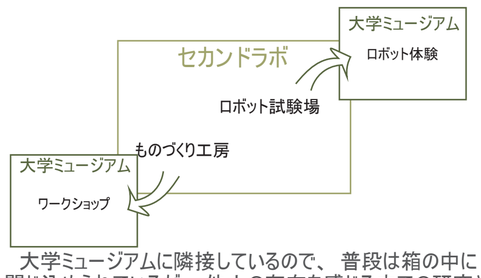
研究背景と目的



科学が発展していき、 現在は様々な分野で研究が行われているが、 研究者たちは同じ環境にとどまっている そこに私は問題視し、 研究者はより、 様々な空間で研究をするべきだと考えた

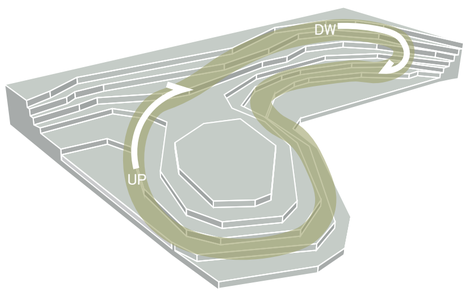
コンセプト

従来のラボは、 他人とあまり関わらず、 外の環境から隔てられた空間になっている。
研究者の周りの環境は常に代わることがなく閉じ込められている

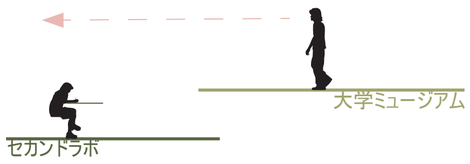


大学ミュージアムに隣接しているので、 普段は箱の中に閉じ込められているが、 他人の存在を感じる中での研究や自然を感じながらの研究、 実際にミュージアムに来た市民を被験者として研究のデータを取ることができる

敷地との関係

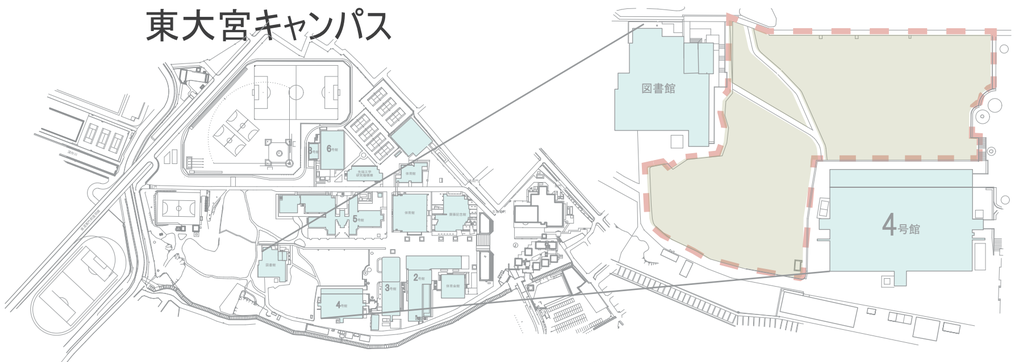


敷地に沿ってミュージアムを建てることにより、全体に高低差が生まれ、 大学ミュージアムとセカンドラボが隣合わせになっても視線がずれて、 視線を感じない距離感で、 存在を感じることができる

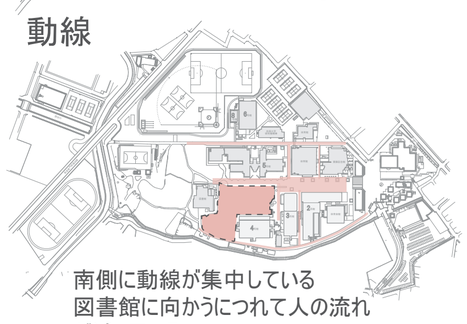


敷地調査

東大宮キャンパス

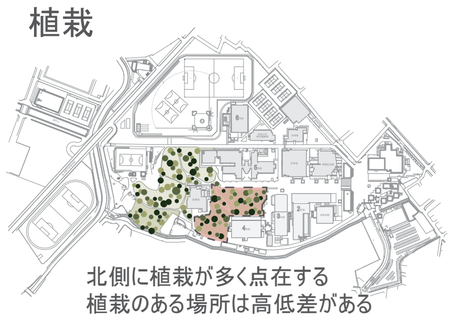


動線



南側に動線が集中している
図書館に向かうにつれて人の流れが減っている

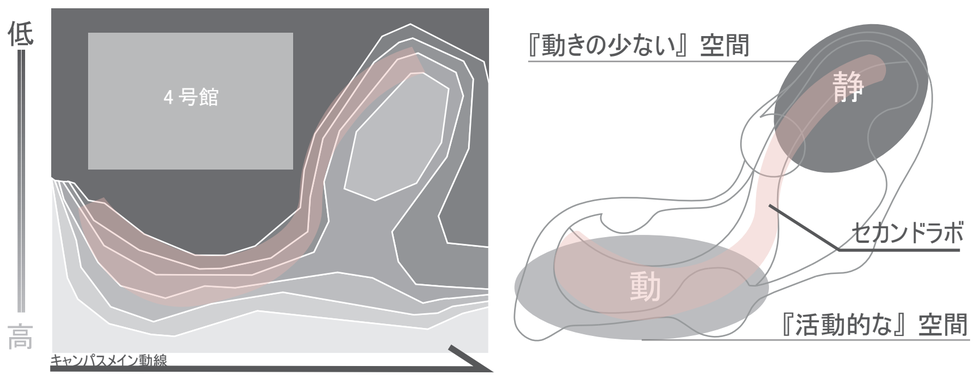
植栽



北側に植栽が多く点在する
植栽のある場所は高低差がある

ゾーニング

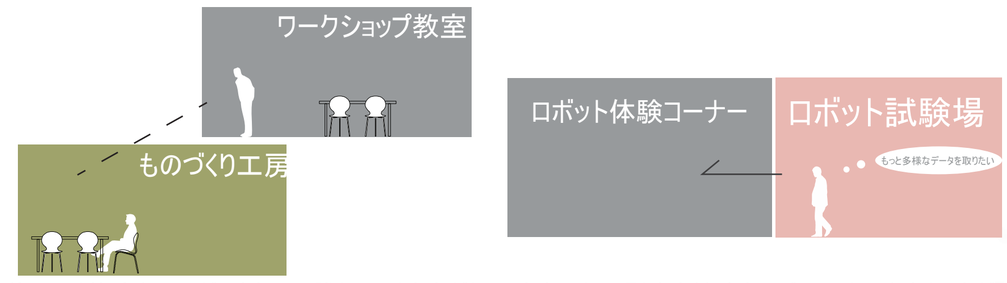
セカンドラボと大学ミュージアムを配置する　ミュージアムを一つの動線でつなぎ、セカンドラボを包む　ミュージアムと動線を一つにまとめることにより、一体感が生まれる　セカンドラボがミュージアムと自然に隣接するようにして、抜けをつくる



敷地のレベルが低いところでは、 一人で静かに研究でいる空間
敷地のレベルが高いところでは、 大学ミュージアムに密接させ活動的な空間を置いた
傾斜が強いところにはラボを置き上下に動きをもたせた

平面図

ミュージアムとラボの関係



普段では体験することができない、 誰かに見られながらものづくりをする場所を設けた
ミュージアム内のワークショップ教室は、 実際のものづくりの現場を見ることができる

今までは、 限られた被験者のデータしか取れなかったがロボット体験コーナに隣接することにより、
多様な被験者のデータを取ることができる

ファサード

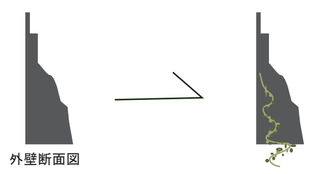
ガラス

パンチングウォール
（鉄骨造の上に穴あき鉄パネル）

RC 造

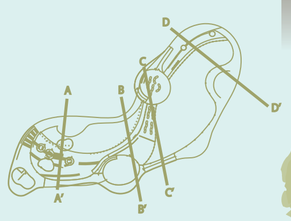
RC 造

ミュージアムを囲む外側の壁はコンクリート打ちっぱなしである
スリット状にガラスがはめ込まれている

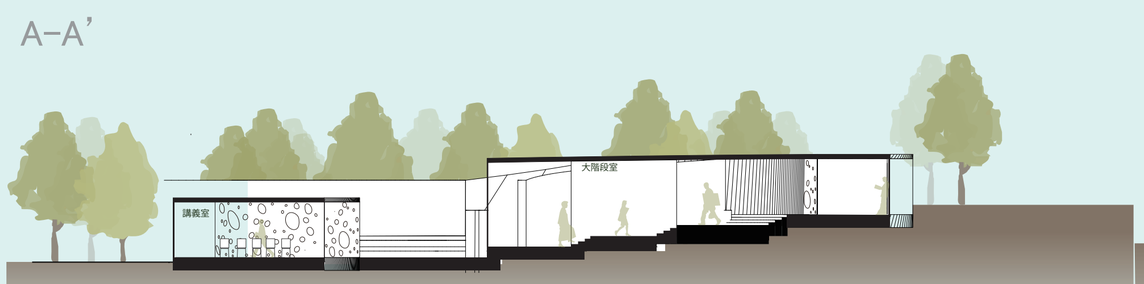


石垣を盛ることにより、地形から浮くのではなく地形に寄り添ったファサードにした。

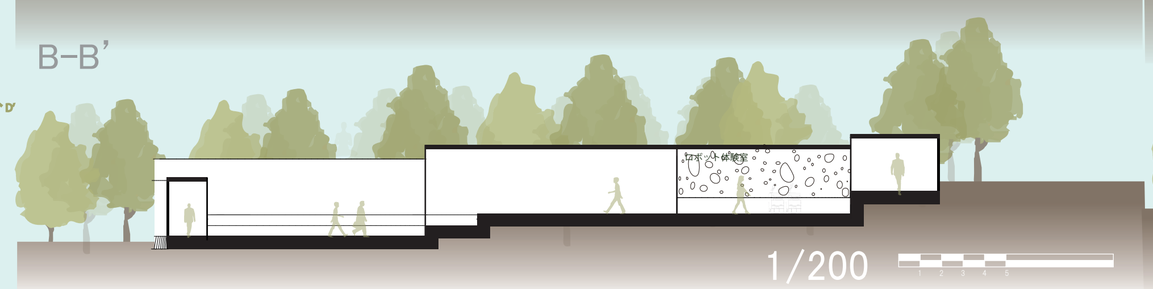
パンチングウォール



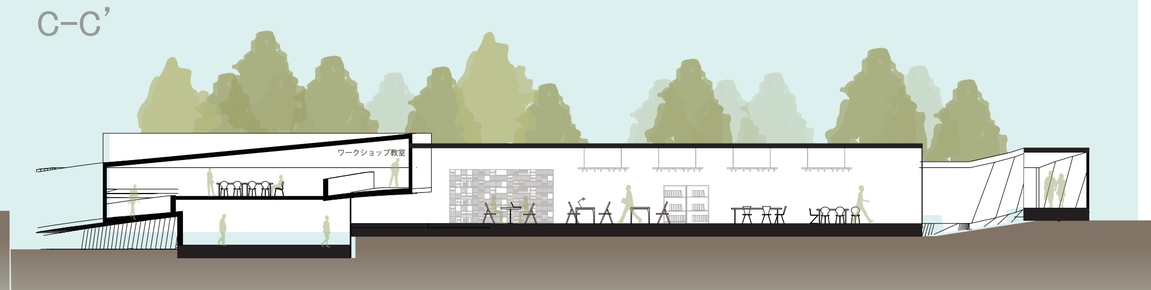
A–A'



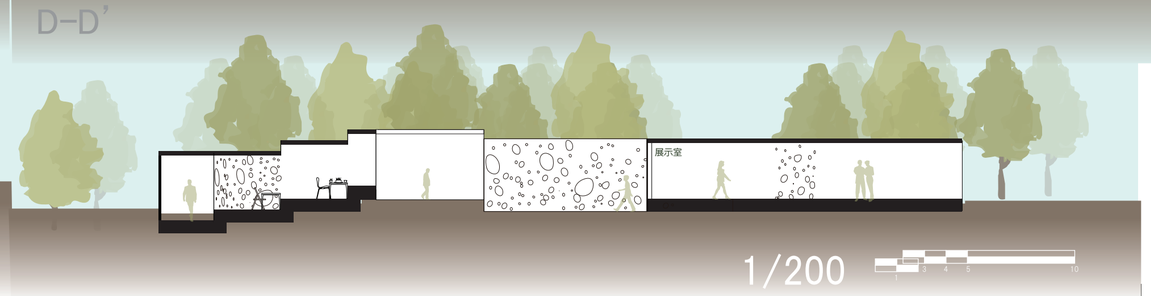
B–B'



C–C'

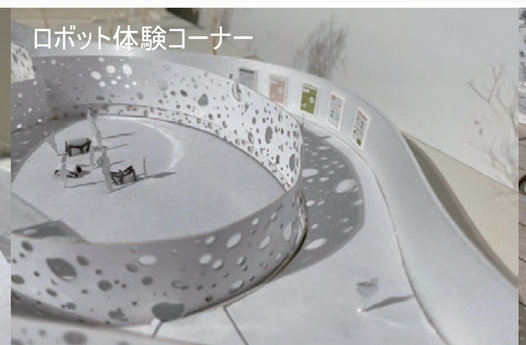


D–D'

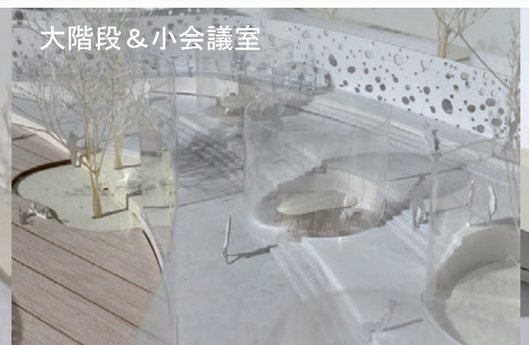


講義室

ワークショップ教室



ロボット体験コーナー



大階段＆小会議室